■山域：奥多摩

■ルート名：海沢下部～大滝

日時：2019 年 8 月 17 日
メンバー：Ｔ野・Ｎ山・Ｎ井・Ｔ山・Ｔ中Ｍ・Ｓ口
報告

7 月までは夏といっても寒くて沢登りで水に浸かるのは修行だった。しかし今はどうだろう。連日の猛暑！！東京の一番暑い日に最適な浸かりっぱなしの沢として海沢に行ってきました。（本当は富士山麓の赤渕川の予定でしたが、前日までの台風１０号の影響でかなり雨が降ったため、安全を考えて海沢に転進しました。)街はうだるような暑さでも、唇が紫になるくらいの涼しさが期待できます。

写真１　下部ゴルジュをお助けで越える。

8：45 海沢園地を出発。林道を１５分くらい戻って、林道横に「水利」と書いてある看板のところから沢に下降、遡行を始めた。すぐに淵が出てきて水に浸かりながらの遡行になる。今回はそれを見越して上下ネオプレンのウエアーで固めているので寒さはなく心地よい涼しさだ。淵をいくつも超える、背の届かない淵もいくつかあるがそれほど難しいところはなく、数カ所お助けを出したがロープの出番はなかった。

写真２　楽しい水遊び。

それにしても酷暑の今日、水に浸かりながらの遡行は本当に気持ちが良い！！下界はうだるような暑さなのだろうが、それを考えるとある意味、これは究極の贅沢な遊びといえるのではないだろうか？

写真３　上部の大滝で遊ぶ。

さて、下部ゴルジュを静寂な大自然の中、十分堪能し、海沢園地の上流部に向かう。するとどうだろう？静寂だった渓はまるで、大発生したメジロアブのように人がワラワラと現れ、その数は軽く１００人を超える。ここ海沢の中流部の連瀑帯は何とキャニオニングのメッカに変貌していたのだ。次々に釜に飛び込むキャニオニングの人たちを横目に滝の側壁をよじ登るのはギャラリーも多く、今まで味わったことのない何とも言えない不思議な感覚だ。釜に飛び込むのは帰りの楽しみにしてとにかく上流を目指すと「ねじれの滝」が現れる。下段はキャニオニングのルートとして整備されているのでしっかりしたフィックスが張って

あって難なく登れるが、上段は完全な沢登りの世界、今日初めてロープを使って真剣に登る。最初が悪く緊張する。すぐ下ではキャニオニングの人たちがにぎやかに歓声を上げている中、ビビりながらロープを引くのは変な感じだ。下部の残置シュリンゲふたつはＡ０使いまくりで何とか登り、左にトラバースしてルンゼ状の岩壁を慎重に登り、ロープをフィックスし後続を迎える（３級Ａ０）。しっかり登攀も楽しめた。

写真４　帰りに遊んだ滝と釜。

　さて、大滝までもう少し遊んで帰ろうと上流に向かい遡行、この辺りも楽しめる。
そして大滝！！再びリゾート地が出現！！ビギニ姿の女性やパンツいっちょの変な外人、その他ビーチでよく見かけそうな若い男女等々・・・。海沢って不思議なところだ。
　「郷に入れば郷に従え」と我々も大滝の滝つぼに飛び込んで遊び、場違い感を払拭する。さて、下りよう！！帰りはキャニオニングの人たちが楽しそうに飛び込んでいた滝で我々も滑り台を楽しんだり飛び込んだりして遊んで、水遊びを十分堪能して楽しい１日を終えた。
　海沢は、暑い１日、水と親しみながら登るには良いところだ。ただ、静かな沢登りを望む人にはお奨めできません。何といっても中流部の連瀑帯（三つ釜～大滝間）はキャニオニングのメッカになっていて、滝見物のハイカーや避暑を求める観光客も沢山来ています。ただ下流部のゴルジュやおそらく上流部は沢登りらしい遡行が楽しめるでしょう。
　帰りは、イモ洗い状態のもえぎの湯を避けて河辺駅前にある「梅の湯」（￥810）へ・・・。露天もあって場所も広くて快適でした。